

クスクリーンによって作れるものは年少、年中はお誕生日会などのイベントごとに着るTシャツやハンカチ、年長は小学校で使用するランチョンマットや体操着袋、サブバックが作れるキットとする。主に玩具売り場や本での取り扱いを想定する。パッケージ含め段ボール素材のキットとし、購入後枠組みや道具を、段ボールを切ったり貼り合わせたりするなどして完成させる。内容物にデザインを描く用紙を同梱させデザインと購入希望商品を記入し郵送、後日版を組み立て、作業を行う流れとする。

5. 検証

今回は年中（5歳）の従兄弟の男児とその両親の協力を得て検証を行った。

5.1 ホットケーキ作り

- 手順：図1の8ステップに準ずる
- 所要時間：調理と食事を合わせて40分程度
- 検証結果：シルクスクリーンとの比較対象とするためホットケーキ作りを行ったが調理工程上、火を使う場面が多いので親が作り子供が所々手伝うという関係性が出来上がってしまった。子供の集中力は調理と食事どちらも15分前後しか続かないことがわかった。

5.2 シルクスクリーン制作

- 手順：図1の8ステップに準ずる
- 所要時間：デザイン決め 30分
シルクスクリーン 3時間



図2ホットケーキ作り（左）とシルクスクリーン制作（右）の様子

- 検証結果：今回は新馬場にあるシルクスクリーンスタジオ「SURUTOCO」にて、シルクスクリーンキット「SURIMACCA」と「SURIMACCAインク」を使用しトートバック1つ、ポーチ2つ、ハンカチ1枚、Tシャツ3枚を制作し検証を行った。作業時間の都合上ステップ1のデザインを決める作業を事前に行っている。基本的に全て子供が主体と

なった作業になったが、デザインの手順では子供のシルクスクリーンの工程上単色のデザインに限定されてしまった。



図3シルクスクリーンの 制作物（ハンカチ、トートバッグ）

6. 今後の展望

未就学児の集中力が今後の問題になることがわかった。今回はデザインを考える工程と刷る作業を分けたため子供の集中力を持続させることができた。このインターバルを今後も有効に使っていく必要がある。また単色のみのプリントもマールインクを採用し、展開していくことも視野に入れる。さらに具体的なキットの内容やスムーズな製版作業を行うワークフローを追及していく。

参考文献

- ・平成29年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について/文部科学省（閲覧日：平成30年5月17日）
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/10/_icsFiles/afieldfile/2018/10/25/1410392_1.pdf
- ・心理教育”サクセスフル・セルフ”を活用した小学校低学年の親子コミュニケーション支援の試み/岡崎由美子 安藤美代子（閲覧日：平成26年5月27日）
http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/files/public/5/52289/201605281140587270/cted_004_056_062.pdf
- ・親子一緒のホットケーキを作りは相乗効果で親子の心理的成長に期待！ /森永製菓株式会社（閲覧日：平成30年6月3日）
<https://www.morinaga.co.jp/public/newsreleas/e/web/fix/file5b6b9f0c31726.pdf>